

## 環境政策技術マネジメントコース

Graduate Course in **Strategic Environmental Management and Sustainable Technology Solutions**

教授 石田 秀輝  
Professor  
Emile. H. Ishida



SEMSaT (Graduate Course in Strategic Environmental Management and Sustainable Technology Solutions) is a course for Masters Degree and Doctoral Degree that started in October, 2005 aims at fostering generalists who can manage the environmental strategies and policymaking at private sectors and administrations. (Adopted as five years project by the JST in 2005) In seven years, 47 master course students and 5 doctoral course students have completed their studies.

The graduate is taking an active part in various areas of the enterprise, NGO and the administrative body. In the year of 2012, 14 students entered the Masters Degree course and started learning. Through the OJT-1, OJT-2 study, importance of backcasting method is emphasized and repeatedly trained including special lecture.

### 概要

本コースは、環境政策・施策の立案並びに戦略構築を行うスキルを持ち、鳥瞰的な視野で指導的な役割を果たす即実践型環境マネジメント人材の養成を目的とした、修士課程及び博士課程のコースである。2012年は14名の入学生があり、とくにバックキャスト思考の重要性に関して、カリキュラムの強化を行い、より質の高いOJT, PSSへの取り組みを行っている。広報、情報収集活動には特に重みを掛け、講義のデータベース化、過去のOJT, VPP/PSSの整理、分析も行った。

### 今年の入学生

本コースでは、平成24年に8期生として社会人学生11名、学部学生3名の入学があった。6、7期生と合わせて19名が在籍している。今後も引き続き、主に社会人を対象とした即実践型環境マネジメント人材の養成を行い、持続可能な社会に必要なソリューション創出のための具体的な成果を発信し続けたい。修了生は、企業や行政機関、NGO等の様々な領域で活躍しているが2011年に実施した修了生の追跡調査では、特に環境POが社会で活躍していることが統計的にも明確になり、今後も教育方法とその成果に関して継続調査を進める予定である。

### カリキュラムの改善

本年度はカリキュラムとして、PSS教材、サステナブル経済政策論並びにソリューション創出論、自然技術イノベーション論等の検証を行い、いくつかのコマの組み換えや言葉の定義付けなどの改善を行った。さらに環境の文化的側面を学ぶ

こと、ならびにSEMSaT教員による各専門分野の講義を行うことの重要性を鑑み、「日本文化風土論」、「環境政策技術マネジメント概論」の新たな開講を行った。前者は安田喜憲教授によるもので、グループワーク等を取り入れ、イーラーニングを活用して、社会人学生と一般学生との交流も行う等、新しい教育手法を取り入れている。また後者は、SEMSaT講師陣がオムニバス形式で、それぞれの専門の最新の動向を講義したものである。環境やサステナビリティに関しては、時々刻々情勢が変化しているため、それに合わせたリニューアルが不可欠である。今後も毎年、着実なブラッシュアップを重ねていきたい。

### 広報・情報収集活動

本年は、前年度に大幅に改定したHP(www.semsat.jp)を頻度を上げてメンテナンスし、講義や学生たちの顔がより見えるようにした。具体的には、修了生も含めた学生の感想のページを設け、体験授業などを開設し、より現実的に授業内容が見えるようにし、HPへのアクセス数も以前より増えるようになった。

イーラーニングに関しては、今後も継続、進化させていく重要性に鑑み、新機材を導入し、撮影専用のスタジオを開設した。これにより、場所や時間の制約なく、効率的な録画撮影が可能になった。

またSEMSaTセミナー(2回/年)では、第12回(2月)に鎌倉投信(株) 鎌田恭幸氏を招き、「意思あるお金が社会を変える」と題して、本来的な意味での社会責任投資のあり方について議論し、第13回(6月)は(株)西栗倉・森の学校 牧大介氏を迎え、「共感が創成する地域経済」というタイトルで自立分散型の地域経済の可能性や今後の方向性を議論した。SEMSaTショートコースは、6月と10月に「社会変革を伴う新しい経営視点とは？」

ーバックキャストという概念を使った新しい戦略策定ーというタイトルで、開催し、毎回定員を上回る方々にSEMSaTの考え方を短時間に圧縮して学んで頂いた。共に、アンケートによれば、好評で、参加者に多くの気付きとSEMSaTを認識頂いたと



特任教授  
多田 博之  
Specially Appointed Professor  
Hiroyuki Tada



教授  
安田 喜憲  
Professor  
Yoshinori Yasuda



教授  
佐竹 正夫  
Professor  
Masao Satake



准教授  
古川 柳蔵  
Associate Professor  
Ryuzo Furukawa



アシスタント  
千田 蓉  
Assistant  
Yo Chida



教授  
谷口 尚司  
Professor  
Shoji Taniguchi



教授  
葛西 栄輝  
Professor  
Eiki Kasai



教授  
藤崎 成昭  
Professor  
Shigeaki Fujisaki



教授  
吉岡 敏明  
Professor  
Toshiaki Yoshioka



教授  
田中 泰光  
Professor  
Yasumitsu Tanaka



准教授  
馬奈木 俊介  
Associate Professor  
Shunsuke Managi

考えている。

その他パンフレットのリニューアル、東京、仙台における入試説明会への参加等を行い、よりいっそう広報・情報収集活動に力を入れた。

### 知的資産のデータベース化

SEMSaTのコースデザインは、週末を利用した対面授業とイーラーニングとに大別されるが、後者に関して、中長期的な視座に立って、知的資産として遺していくことを進めている。可能な限りの新規情報を収集し、2014年度までに必要なビデオ撮りを完了し、環境科学研究科の貴重な財産として、検索機能等も付加し、多くの方に使って頂けるようデータベース化を行う予定である。現在のところ、最終的には、143コマ分のデータベース化を完了させるが、現在までで約40コマのタグ付け、およびデータベース化を終了している。

また、SEMSaTスタート以来、どのように環境を基盤にしたビジネス視点が変わってきているかを俯瞰する目的で、過去28回分のOJT課題ならびに過去40回分のVPP/PSSのデータベース化も開始した。ものづくり中心のビジネスプランから、ライフスタイルデザインに立脚したプランへの推移が比較的顕著に見られる。今後のOJT, PSS指導の基礎情報として、また、環境意識変遷の検討素材として活用したい。

### その他

エコジャパンカップ授賞式(2月13日)が開催され、「90歳ヒアリング」がライフスタイル部門「市民が創る環境のまち元気大賞」の特別賞を受賞した。この90歳ヒアリング手法は、SEMSaTの3期生の佐藤哲氏のVPPの成果が展開されたもので、当初は宮城のみだったが、現在、秋田・金沢・大船渡など国内外14カ所に拡大している。



DESIS Japan フォーラム in 仙台を開催(5月13日)、東北地方におけるソーシャルイノベーション事例が紹介された。東京

や関西地域からも関心がある大学関係者が多く参加し、DESISへの参加意向を強めている。(DESIS:Design for social Innovation towards sustainability .http://desis-japan.org/j/)



自然技術イノベーション論やソリューション創出論に直接関わる、ネイチャー・テクノロジーやライフスタイル研究とその実証試験に関するショールームが完成した(9月)。ネイチャーテクノロジーを用いたものづくり例や出版書籍、エコラボにおける微弱発電システムやDC/ACハイブリッドの実証試験装置などが展示されており、取材や見学に多くの方が訪れている。



ライフスタイル研究の一環として、8月に沖永良部島(奄美諸島)で、島に自生している植物と人々の生活のかかわりについて現地調査を行った。人びとの自然を利用した暮らしを見直すための資料として出版を計画している。



エコプロダクツ東北2012(夢メッセ宮城10月12日~14日)、に出展、環境省と連携し、ライフスタイル・デザインの成果やライフスタイル提案型イノベーション事例の「インハウスファーム」、「トンボの風車」を展示した。また、来訪者に対するアンケートを実施し、社会受容性評価や新たなアイデア収集を行った。

